

資料 3

みんなで支える森林づくり地域会議の主な質疑・意見 (H26, 3, 14 現在)

1 開催状況

地域会議名	開催日	出席委員数	備考
佐久	25, 8, 6	7	概要、実績・計画
	26. 2. 25	8	実績見込み、事業計画
上小	25, 11, 6	7	現調(2)、実績、進捗
	26, 3, 7	6	実績見込み、事業計画
諏訪	25, 10, 22	7	実績・成果、計画
	26, 3, 19	-	実績見込み、事業計画
上伊那	25, 7, 4	9	概要、実績・計画
	25, 10, 30	10	現調(3)
	26, 3, 10	9	実績見込み、事業計画
南信州	25, 7, 10	8	概要、実績・計画
	25, 12, 2	5	現調(3)
	26, 3, 13	7	実績見込み、事業計画
木曾	25, 7, 11	7	概要、実績・計画
	25, 11, 21	7	現調(3)
	26, 2, 28	7	実績見込み、事業計画
松本	25, 11, 14	7	現調(4)、実績、進捗
	26, 2, 28	5	実績見込み、事業計画
大北	25, 7, 19	6	概要、実績・計画
	25, 11, 26	7	執行状況、現調
長野	25, 11, 8	6	現調(2)、実績、進捗
	26, 3, 12	9	実績見込み、事業計画
北信	25, 6, 25	8	実績・成果、計画
	26, 2, 28	7	実績見込み、事業計画

本年度10地域で23回の地域会議で出された主な意見を取りまとめたものとなっています。

2 森林税活用事業別等の質疑や意見

【森林税全体】

- 県下各地で拡大している松くい虫対策に対し、森林税を活用して強力に取り組む必要性を強く感じる。
- 5年間の事業継続は地域にとってありがたく成果も目に見えてきてお

り本当に感謝している。また、いろいろな協議を経て、新たに間伐材の利用の事業を取り入れられ大変期待している。

- 森林税が有効に使われていることが、実際に集落のまわりを見るとよく解かる。1人年間500円いただいているが、森林の恩恵を受けている県民の皆さんから1,000円ぐらいはいただいてもよいと思う。
- 間伐材の利活用による継続的な森林づくりを進めることを目的に、新たな事業が始まっており、今までなかなかできなかった部分に対して取り組む事業が多くとても良いと思うのでしっかり推進してもらいたい。
- 森林税の使い方が明快に見えていないと感じる。例えば戦略的に生業として成り立つ林業を目指すなど、もう少しわかりやすい森林税の立ち位置があるとよいのではないかと思う。
- 本年度から新しくなった森林税は、従来の里山の間伐に木材利用の仕組みも加わりたいへん期待している。
- 山の魅力を若い人に伝えて関心を持ってもらえるよう教育することも大事なこと。将来を見据えて、山には色々な魅力があるのだよということを木育事業だけでなく森林税活用事業の中で取り組んでももらいたい。
- 私の村では、森林・林業を柱に村に住み続ける仕組みづくりを進めている。例えば、山に捨てられている間伐材を村民が搬出してきて、それを地域通貨に替えて村内で経済の循環を起こそうという取組を始めた。こんな小さな仕組みがこれからの山村の生きるきっかけになるのではとの思いもあり、ぜひ森林税事業で多くの県民の皆さんに山の大切さを理解してもらえるよう、森林税活用事業を使ってPRして欲しいと思う。
- 「木」と「水」、こういう物は私たちの生活の中では一番大切な原点であることから、これを守っていくことに関して森林税を大いに使ってもらえればと思う。森林税を、森を守るための資金にしてもらえれば皆さんに喜んでもらえるのではないかと思う。
- 昔の「山道」、自分が山へ入る道、その山道が完全に木が覆い被さってしまい通ることができないところが多い。そのような道の回りの伐採をこのような事業(森林税活用事業)に入れて、森林の整備だけでなく、森林の楽しさを感じるような、体験できるような道の整備、そのようなところにも森林税を使って整備ができないか。森林だけのことを考えていて、そこへ行くルートのことには中に入っていないような気がする。人が入れるようになれば、森林を見直す目が出てくるのではないかと思う。
- 森林税の取組はとにかく長く続けることが、山を守ること、里山を守ることにつながると思っている。2期目に入って、またさらにこれが良いと言うことで皆さんに知ってもらい、3期目、4期目と長くできるようなことをやっていくことが大事だと思う。

森林税の税収の約7割を活用している里山の間伐を促進する

【みんなで支える里山整備事業】

- 間伐、里山整備が実施され、数年経過すると光が入りヤブ化が進み、緩衝帯としての効果も無くなり、景観も悪くなるため、森林税という県独自の施策として、単価は安くてもいいので、再度下層整備ができるような、メニューを考えてほしい。
- 搬出・集積する作業にも森林税の新たな助成を行うことになり、商品になり地元の利用として確実な間伐材という条件は、出口の産業の振興という面も考えながら活用するという事は良い視点である。
- 自分の地域でも2年間かけて集落の周りの里山整備を行ったが、集落につながる道路も明るくなり、地域の住民の皆さんもたいへん喜んでいて、宅急便の人はこの地域はとても良いが、他の地域は進んでいないということを書いていた。そのような事を考えれば、この事業がまだ完全に普及していないとも思うし、面的に計画性をもって地域の住民をその気にさせる取組が必要であると感じる。
- まだ実施していない集落の人たちに、里山の整備を行った集落や整備を行っている現場を見せ、地域の人々の声を聞かせて、進めていったらどうか。
- 昔は竹藪と木に覆われて昼間でも暗いような所で、雪が降ると車も通れなくなるような場所でしたが、里山整備をしたおかげで、雪が降っても危険がなく通れるようになり、すがすがしくなっている。そんな所にも森林税が使われていて整備されていることをつくづく思った。
- 1期目に関して各事業を見ると国庫補助事業、県単事業、税事業、などといった棲み分けが不明瞭に思える。2期目は明確にしてほしい。
- 昔開設した作業道が荒れてしまっており、搬出に使おうとしても危険で直ぐには使用できないものが多い。そのため、今後の森林税活用事業の実施（里山整備事業で搬出し、信州の木活用モデル地域支援事業を実施）に資するため、作業道の補修等についても森林税で手当てできるようにしてほしい。
- 森林整備ということで、通常の森林造成事業でやると「経済活動」ということで、一律何%というような形で間伐が優先されて、搬出する目的に向かってやっているような形で、それは良いのですが、やはり税事業というのは同じ森林整備を実施するにしても考え方を改めて、森林を見せる、山を綺麗にする、人が歩くところでどういう見え方になるかということ念頭において実施していけば、同じお金を使うにしてもやり方が若干違ってくる部分があるのかなと思う。
- 今、道路の工事などは「傷んだ舗装を直しています」「新しい橋を架けて

います」って表示をしている。森林税の間伐事業も「これは森林税を使って里山を整備しています」というような、事業名などかしまった戒名じゃなくて、一般の方にもわかる看板を現場につけるなどをしたらどうか。

【地域で進める里山集約化事業】

- 間伐を中心とした森林整備を相対的に進めていく上で、集約化作業という事業は非常に大事な部分で、一般の方々にも森林税の必要性や用途等を認識していただく大きなきっかけにもなることから、できる限り集約化への配分を多くしてもらいたい。
- 森林所有者がなかなかその気になってくれず、また不在村地主の存在が集約化のネックになっている状況である。
- 森林簿や計画図は所有者等の情報更新がされていないことが多く、集約化にあまり活用できない。所有者に関する詳細な情報を市町村がどれだけ提供してくれるかにより、作業の労力が大きく異なる現実がある。
- ヘクタール当たりの補助金単価 15,000 円～30,000 円であるが、条件によっては補助金を活用しても赤字になってしまう。搬出すればなおさらである。
- 林地の集約化について、不在村地主が居るとなかなか進まない。個人情報などいろいろな規制のある中で、森林組合が所有者の安心を高めるため、市町村の協力をお願いして都市に住んでいる方に説明に行くようなことで対応している状況である。集落や町村など地域を上げて協力をいただいているが、どうにかある程度解消するような仕組み・システムにしていきたい。
- 不在村地主の森林は、行政主導で整備していく手法の確立が必要である。
- 境界が明確でなくても、切り捨て間伐の場合は収入が無いので森林所有者の理解は得られるが、搬出間伐では収入が伴いますのでたいへん難しくなる。日本全国の山の境界が未確定という状況にあり、森林税の里山集約化事業を始めあらゆる事業を活用して境界を明確にすることが大事だと思う。

【みんなで支える森林づくり推進事業】

- どの里山の森林整備が、森林税を使われて実施しているのか、地域メディアも含めて、もっといろいろな形で森林税を活用して実施していることをPRする必要がある。
- 森林税が県民アンケートの結果を見ると、約8割の支持を得て継続となったということは、実績が県民から評価を得たということだと思う。しかし、森林整備を主体に活用している訳ですが、森林税がどこに、どの

ように使われているのかという部分が、まだ県民に伝わっていないのではないかと思う。2期目で実施する事業は県民にわかりやすい形で実施、PRしていただきたい。

- 森林税のパンフレットは見やすくよい。回覧板や配布ものではたくさんの資料の中であまり見ないので、コンビニなどは良い取組である。さらに活用を工夫して、いろいろな会合などに出向いて、森林税の話をしていただき、森林税が何にしているという視点を重点にPRしてもらいたい。
- 地域会議に参加して森林税はどのように生活に返っているのか、その仕組みがよくわかって良かった。
- 私はこの森林税ができること、500円を徴収するというよりも課税をすることで、皆が森林に注意を払ってもらうことを期待して森林税を創ったと思った。それでも中には森林税を払っていても全く無関心の人もいます。努力はさせていただいていると思いますが、さらに県民の皆さんに森林づくりや森林税の使途に関心を持ってもらえる方法を考える必要があると思う。
- これまでの取組みの結果、森林税については県民に徐々に浸透してきているのではないかと認識している。
- 集落周辺での森林税を活用した間伐等を進めている時、行政無線などを利用して、広く地域の人に森林税を活用している旨を普及したらどうか。
- 税金を納めている立場から、その使い道や効果的に活用しているというアピールなど、PRの方もしっかり行って、税金を納めている側の納得が得られながら、継続して森林づくりを進める必要がある。
- 森林税の導入当時、森林に対する県民の人たちの関心が盛り上がりましたが、何年もすると関心が低下してくる。再度森林税のPRを進めて欲しいと思う。
- 活用事業のメニューが増えていいことである。もっとPRを行って、県民の皆さんにも直接関われる取組を展開願いたい。
- 男性の目で見ること大事ですが、女性の目を見て、森林の現状や間伐の状況、森林を守り育てていること等、森林・林業の現実を見ていただくことが、皆に分かっていただき、新たな取組など女性の視点から何かが出てくるのではないかと思う。
- 皆に向けて林業という窓口を開いて頂ければ、女性にもシビアな山の仕事を理解してもらえるのではないかと思う。百遍聞くより一遍見ることが重要。それも結局、森林税に繋がって行く話になるのではないかなと思う。こんな仕事のところにも森林税は使われているのですよと、非常に皆さん納得するのではないかと考えており、そんな窓口を広げていただくとありがたい。
- どの様に山が守られているのか、現場を見て頂く事はとても大事な視点だ

と思う。地味で皆に知られていないところで一生懸命働いている方にエールを送りたいと思う。

- 森林税が始まって6年が経過する。始めのころは県民の関心がそれなりに高かったと思うが、今では支払っていることすら忘れていている県民が多い。特に使いみちについてはほとんどわからないのではないか。PR方法等に工夫がほしいところ。例えば、『このベンチには皆様の森林税が使われています』などの文言を目に入るようにはっきり表示させることなどはどうか。
- 森林整備の大切さはその地域にとどまらないはず。従ってPRは川上だけでなく、下流域や県外も巻き込んでやる必要がある。そのためには、その辺の意義を理解している下流域側の有名人を起用してPRすれば影響力は絶大のはず。
- やはりイベント等もそうであるが、地域会議も一番先頭にくるのは「森林税による会議」じゃないかということで、この「森林税」を一番先頭に出して、イベントをやる場合は「森林税による〇〇〇イベント」としたらどうか
- 「長野の林業」という冊子の表紙に私たちがやっていた、森林税を活用した里山利用の内容を載せていただいた。このようなことも地域の皆さんが喜んで、意欲の喚起にもつながると思う。
- 家の近くでも間伐や境界の明確化とかやっているが、何の事業という説明が無い。森林税を活用していますという一言があれば、地域住民もわかるのではないかと思う。
- 切り捨て間伐は、別の一面から見ればもったいないが経費がかかる事なのでもったいないだけではなく、現実を知って頂く事も大切なので現場を見てもらうイベントを行うなど PR が大事であると思う。

【森林づくり推進支援金】

- 森林づくり推進支援金で実施する森林整備や緩衝帯は、単発的な整備も可能となっているが、2期目がスタートする本年度からは、単発的ではなく、市町村森林整備計画にも即し、将来の森林のあるべき姿を定め、それに向けて地域と施業協定を結び、発展性、継続的な森林整備や緩衝帯整備としてほしい。
- 木製品を設置して終わるといった完結型の事業が多いように思う。もっと、子供達を主体に地域の大人達を巻き込んだ継続的な事業展開ができればよいのではないか。地域が山との関わりを持ち続けることができる仕組みを作る必要があると思う。
- 支援金を活用するこの事業に、NPOが加わって、市町村や地元、さらには企業等の森林の里親事業と結びつけ多角的に展開することは可能か。NPOはフィールドを探すことに苦労している。市町村とNPOが協力す

ればより効果的と考える。

- 森林税で単独で行える事業が町村単位で見れば少ない。この割り当てでは事業として成立しない。市町村への均等的なことも理解できるが、重点的に行う様な配分を考えていただきたい。

【水源林公有林化支援事業】

- 事業の進め方と予定件数は如何。取得となると時間がだいぶかかると思われるが、繰り越しは可能なのか。

【信州フォレストコンダクター育成事業】

- フォレストコンダクターの養成人数で各地域がバランス良く配置できるのか。その人数で足りるのか。
- フォレスターやプランナー、昔から育成している林業士との連携が重要である。
- フォレストコンダクターになった人は、地域で実際どのような活動を行うのか。
- 豊かな森づくりは豊かな人づくりからなるのかと思う。新規事業である信州フォレストコンダクター育成事業については、地域に戻れば、需要側と供給側の現在の関係などを総合的に考えれば、地域を指揮できるような人材を育てることは、なかなか難しいと思いますが、活躍については大いに期待している。
- 切る人、売る人、使う人がいる。これが林業の発展を阻害している。そのようなつなぎ役をしっかりと育ててほしい。
- 日常やっている仕事を網羅した研修でたいへん良い。地域と調整しながら山作りをするわけであるが、経営観念だけが欠けている状況であるため、その部分について他のコンダクターの情報交換を含めしっかり展開してほしい。
- 地域の課題である、木質バイオマス利用のための木質チップ製造やチップボイラーの導入、根曲がり材の活用等が、この事業と相まって人材が育成され、とても地域のためになった。しっかり地域課題をとらえ、目的を持って育成すれば良い事業である。

【木育推進事業】

- 子供達の教育が一番重要であり、森林税の2期目からは子供達への教育に力を入れるべきだと考えます。子供達のために、森林を再生させるには何をすべきかを考えた方がいいと思う。親から子へ、子から孫へと引き継がれるような里山づくりを教育に取り込むべきである。木の大切さ、水の

大切さを伝える心の教育が大事だと思う。そのような観点でもっと木育推進事業は拡大して取り組むべき。

- 建築士会に所属していますが、木育事業にもっと連携して進めていきたいので調整をお願いしたい。
- 中学校で実際に関わり、子供達の反応や理解が心配であったが、実際にやってみると、木の香りに驚くなど子供達は興味津々であり、感動する子供もおり、大変すばらしい取組であるため、もっと拡大して実施すべき。
- 10/10の補助率が基本であるが、それぞれの取組で対象、対象外など事業費のとらえ方で違いがあり、査定により見直しされた結果との説明であったが、補助率の違いについて客観的な説明が必要である。
- 木育について、子供たちが道具を使って物を作るということを、全市町村で計画的にやっていただきたい。学校の希望があれば教育事務所でまとめていきたい。
- 子供達が木に触れ、木を通した体験することは非常に重要であるが、実施している学校が山側の学校が多いので、いろんな意味を含め、街中の学校でも進める取組が必要ではないか。
- 先生としては専門外のことを、いろいろやらされることには拒否感がある。先生の負担が少なくなるように、マイスターのような方に講義をしてもらうなど、子供たちは楽しいと思える体験が一度でもあれば、非常に効果がある森林学習になると思う。
- 子供たちの親は木そのような教育を受けていない世代だと思う。ぜひ、このような活動に父母にも一緒に参加してもらい、親子で参加することで、また違った学習ができると思う。
- 1校でも多くの学校で実施してもらいたい。また、周知の方法にも工夫が必要である。
- 木育推進事業では、子供たちを対象に取り組んでいるが、事前に座学を実施して、森林・林業の重要性にふれたらどうか
- 木育に座学を入れて教えたらどうか。作るだけでなく、人を活かす、木を活かすことが大切。
- 毎日山に行って山仕事をしていますが、若い林業後継者が育っていないことが心配。木育事業のように、小さなころから木や山に親しんで興味を持ち、山の後継者が育つような方向になってくれればと思う。ぜひ、森林税も林業後継者が育つ方向に活用してもらえればと思う。
- これまで小・中学校を対象として実施されてきたが、幼稚園児まで対象を下げて実施できないか。また、小中学校の一部の児童・生徒でなく、学校の全児童・生徒を対象にできないか。
- 森林税を活用して行う木育行事の積極的な創設や情報の提供をお願いし

たい。木育は子どもだけが対象ではなく、親子でやるから意味がある。親子と一緒に学べる木育事業を希望する。

- 大人対象の木育活動も実施したらどうか。
- 木育に力を入れてほしい。大工になりたい若者が少ない。実際に木を扱える大工が減ってきている。ビニールに包まれてきた建材を組み立てるだけ。墨付けもできない。先のことを考えた上で、子供の職業教育を意識した木育を要望したい。

【信州の木活用モデル地域支援事業】

- 信州の木活用モデル地域支援事業や木育推進事業のようなソフト関連事業は、県民側の視点からすれば木質資源の活用や木に触れ親しむなどとてもよい取組だと思う。
- もっと、この事業はモデル地域を各地区に増やし、一般県民の目に触れ、森林税がこんな身近に活用されていることを普及すべきである。
- 信州の木活用モデル地域支援事業はとても良い事業である。今後も是非推進してほしい。なお、せっかく作っても、汚れたり、壊れたりすれば逆のイメージになるので、メンテナンスなど地域がしっかり管理する体制をお願いしていく必要がある。
- 「信州の木モデル活用事業」で県産材を活用して製作した木製プランターが好評であったので、他の取組で70基ほど製作し、商店街に配置する計画となった。

【里山利用総合支援事業】

- 学校の先生が教えられない分野を地域の皆さんが子供達に教えてあげる「コミュニティースクール」が、県内には5校ほど取り組んでいる。この取組と里山利用総合支援事業を組み合わせ、地域の人たちが地域の里山資源を使って、子供達に何を教えてやろうかと考え、実施していくことは大変重要であり、子供達が里山を楽しんで利用し、さらに大切さも理解するような取組として展開したらどうか。
- 地域によっては里山を利用して頑張っている集落がある。そんな集落にお金が回り、里山が健全になるよい事業である。
- 里山利用総合支援事業などの情報が、これを必要としている小さな団体や区にきめ細かく伝わっていない。何か良い方法はないか。

【地球温暖化防止吸収源対策推進事業】

- 森林の里親に参加している企業を対象としているが、事業を拡大し、こ

の集落、町村での森林税を活用した間伐で、森林吸収源対策としてCO₂削減がこれだけ進みましたというような、CO₂削減量を身近な範囲で数値化し、それをPRすると、県民の皆さんも捉えやすく、森林整備の効果や森林税の用途などの普及につながるのではないかと。

【その他】

- 松枯れが目につくが、枯れてから伐るのか、枯れる前に伐るのか、どちらも補助金がないと難しい。可能であれば枯れる前、先行伐採が可能となるような仕組みも考えていただきたい。
- ペレットストーブはとても良いと思うが本体が高い。各個人宅で手に入れやすい価格になり、県や市町村の助成が続けば、もっと木材の活用が進むと思う。また、地域の全ての保育園などにペレットストーブを導入すれば、木育としてもまた一般家庭への波及効果としても効果が高いのではないかと。
- 松くい虫の被害が大きな問題。被害対策に森林税では焼け石に水の状態である。今後県ではどこまで守ろうとするのか。
- マツタケが重要なので、松くい虫対策を重点的にやってほしい。
- 木材利用ポイントがまだ使われていない。もっとPRする必要がある。
- カラマツは植栽して60年位経った。手入れから利用の時代になった。利用する森林整備に切り替える必要がある。カラマツはベニア等に利用されているが、アカマツは利用できる部位が少なく、松くい虫被害がある。アカマツ材の利用拡大を推進すべき。
- 誰の所有かわからない山を放置すると、昨今の巨大な台風が来た時に山が大きな災害を起こすことになる。きちんと山の手入れが進むことイコール山を健全に保つことということがまだまだ県民に知られていないと思う。山を健全に保つことの究極は、伐って植えて育てるという循環が必要で、そのことを忘れてはいけないと思う。
- この頃は学校で習わないので「山の日」について、「信濃の国」をみんなで歌うイベントをやってほしい。
- カナダへ行ったが電柱は全て木であった。すべての物とはいかないかもしれないが、せめて会議室のテーブルも木を使ってほしい。